

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

付替県道工事の進捗状況報告（県道上久我栃木線）

粟沢7工区工事が完成しました。

現在、思川開発建設所では、県道上久我栃木線の付替県道工事を行っていますが、鹿沼市上南摩町の粟沢地区の『付替県道粟沢7工区工事』が、平成27年3月に完成し、これに伴い付替県道工事の進捗率は67%となりました。

この『付替県道粟沢7工区工事』は約130mの区間の道路工事で、平成25年9月に現地作業に着手し、山の尾根の一部を掘削したり、谷間を土で埋め戻したりして道路を造りました。

工事のコストを抑えるため、山の掘削の際に発生した土砂は、谷の部分に埋め戻す土砂として極力再利用しながら道路を造りました。また、土砂の埋め戻しにあたっては、道路を造るために適しているかどうかを、土質試験を行って確認しながら工事を進めました。

さらに、掘削や埋め戻しにより発生した斜面には、なるべく元の自然の状態に戻る様に、同じ粟沢地区で取りおいた表土を吹付けるなど、環境にも配慮しながら工事を行いました。

工事期間中には、工事関係車両の一般道通行時に安全な速度で通行するなど徹底を図り、地域の皆様にご迷惑をおかけしないよう努めて参りましたが、何かとご不便をおかけしたかと思えます。この場をお借りしましてご理解・ご協力いただきましたことをお礼申し上げます。



【工事着手前（平成25年9月）】



【完成状況（平成27年3月）】

上南摩町自治会及び南摩ダム対策委員会の皆さん、 鹿沼市農業委員会の皆さんが工事現場を見学されました。



去る2月28日、地元の鹿沼市上南摩町自治会及び同自治会南摩ダム対策委員会の16名の皆さんが、付替県道工事及び板荷引田トンネル工事を見学されました。

まず、南摩ダムのダムサイトを見渡せる高台にて概要説明を受け、次に、完成間近い付替県道栗沢7工区工事の状況を見学されました。同じ上南摩地区にお住まいの方でも、
【トンネル工事内部を見学】最上流部に位置するこの付替県道工事を見る機会は少なく、皆さん熱心に見学されていました。

次に、栃木県で施工されている「一般県道板荷引田線板荷引田トンネル（仮称）本体建設工事」を見学されました。この日現在で、トンネル延長約700mのうち、約360mまで掘進が進んでおり、掘り進んだトンネルの大きさに皆さん驚いていました。



【鹿沼市農業委員会の皆さん】

また、3月25日には、鹿沼市【坑口にて、上南摩の皆さん】農業委員会の皆さん32名が、公共事業による農地転用の状況を把握する現地視察研修として、南摩ダム予定地と付替県道栗沢7工区工事現場を見学されました。現地では、事業の内容や効果等について、熱心に質問されていました。

思川開発建設所では、このような見学会などの機会を通じて、皆様のご理解をいただくことに努めてまいりたいと考えております。

チェーンソーを使い、間伐体験をしました！

鹿沼市主催「森林活動人材育成セミナー」に参加



【チェーンソーを使って】

去る2月14日、鹿沼市自然体験交流センター及びその周辺の山林を会場として、鹿沼市主催「森林活動人材育成セミナー」が開催されました。このセミナーは、森林の役割やその重要性、保全管理の必要性について理解を深めることを目的に、利根川荒川水源地域対策基金事業の一つとして開催されたものです。セミナーには、森林作業中の怪我に対する応急措置の練習や実際にチェーンソーを操作しての間伐作業を体験しました。

当思川開発建設所からも2名の職員が参加しましたが、講師の指導のもと、初めてチェーンソーの操作に挑戦していました。

講習後は、講師の鹿沼市林業振興会板荷支部（サンデーフォレストクラブ）の皆さんが用意したキノコ汁を食しながら、参加者との意見交換を行い、森林を守っていくことの大切さについて再認識することが出来ました。



【AEDの使い方を練習】

思川流域のご紹介

第3回 小倉川の名前の由来について

思川の中流部に当たる栗野川と合流地点から黒川との合流地点までの間は、以前は小倉川と呼ばれていたことは、前回ご紹介したところです。なぜ、小倉川と呼ばれるようになったのでしょうか。今回は、この小倉川の名前の由来についてご紹介します。

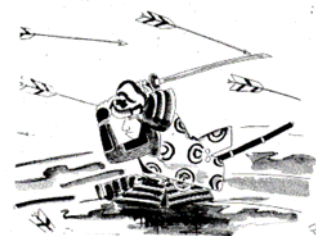


【清洲橋付近の思川（小倉川）】

小倉川の名前は、小倉主膳（主膳之介）という若武者に由来すると云われています。

戦国時代末期、いまだ下野の空には戦雲が閉ざしていたある春先、まだ名前も無かった小倉川の東岸にあたる半田まで、当時の下野の有力豪族である宇都宮氏の兵が進軍してきました。一方、西岸の深程には、この地を治める皆川氏が陣を構えてい

ました。川は雪解けの出水で渡ることが難しく、進軍してきた宇都宮勢も気をくじかれていましたが、そのとき、宇都宮勢のなかから、「仰せの如く第一陣承わらん」と大声で若武者が現れました。当年二十歳の小倉主膳です。主膳は、ザンブと川におどり込み、皆川勢の攻撃のなか、濁流に逆らわず斜めに渡りはじめました。宇都宮勢は、この勇壮な様を見て、「小倉を討たすな。川は浅いぞ。」と続いて川を渡り始め、皆川勢と激戦となりました。やがて数に勝る宇都宮勢が優勢になり、皆川勢は退却となりました。以来、主膳の勇名はとどろき、小倉川の名は、この姓から取ったと云われています。



【川を渡る小倉主膳】

（出典：「栗野昔ばなし（栗野町役場職員協議会編）」から引用）

小倉主膳（主膳之介）に由来する話はまだあります。この川には相撲好きでいたずら好きの河童が棲んでおり、人を見ると背後から飛びつき、人を投げ飛ばしては喜んでいました。ある日、川のほとりに立っている主膳之介に、河童はいつものとおり後ろから飛びつき、相撲を挑んでいきました。しかし、主膳之介は大力の武者であったので、河童はたちまち河原にたたきつけられました。いたずら好きの河童は、「許して下さい。二度といたずらしません」と約束して、川の中に姿を消しました。その後、村人は川を渡る際に、「小倉だ、小倉だ」と云って、河童の難を避けるようになりました。このため、いつしか小倉川と呼ばれる様になったと云われています。ご当地には、この民話に因んだおまんじゅうもあります。



【伝説に因んだ河童像】

（鹿沼市深程）

（出典：鹿沼市深程「黒子松屋」さんのホームページから引用）

職員の異動（転出及び転入のご紹介）



転出 大変お世話になりました。

3月 31日付け	工務課長	徳添 桂一（関東地方整備局へ）
4月 1日付け	副所長（事務）	増田 智彦（千葉用水総合管理所へ）
	副所長（技術）	星野 徹（本社監査室へ）
	総務課長	伊藤 保（本社人事部へ）
	第一用地課長	杉田 康司（本社用地管財部へ）
	工事課長	富田 尚樹（総合技術センターへ）
	調査設計課	金山 明広（下久保ダム管理所へ）
	工務課	若林 裕志（荒川ダム総合管理所へ）
	工事課	大熊 清和（沼田総合管理所へ）
	工事課	引地 隆久（長良川河口堰管理所へ）

転入 宜しくお願いします。

4月 1日付け	副所長（事務）	松本 徳幸（本社用地管財部から）
	副所長（技術）	小島 幸康（本社関東事業担当から）
	総務課長	江頭 憲一（本社用地管財部から）
	第二用地課長	井上 匡浩（関東地方整備局から）
	工務課長	吉澤 利男（琵琶湖開発総合管理所から）
	工事課長	佐野 貴之（中部地方整備局から）
	調査設計課	五十嵐 昇（会計検査院から）
	工務課	上野 玲（荒川ダム総合管理所から）
	環境課	竹谷 幸浩（木津川ダム総合管理所から）
	工事課	大平 好亮（池田総合管理所から）



所内での配置換え

4月 1日付け	第一用地課長	渡辺 和重（第二用地課長から）
	工事課	山口 茂（環境課から）



編集 後記

桜の花も満開となるこの頃、4月の人事異動の時期を迎えました。
当思川開発建設所でも、皆様に大変お世話になった10名の職員が転出し、
代わって、同じく10名の職員が転入しました。
新しい年度を迎え、前年度同様、宜しくお願いいたします。

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/index.html>